

令和7年度第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議 会議録

1 名 称 君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議

2 日 時 令和8年3月30日（月）午後2時00分から3時20分

3 場 所 君津市役所 5階大会議室

4 議 題 (1) 君津市総合計画後期基本計画の策定状況について

5 公開または非公開の別  公開 ・ 非公開

6 出席者 委員8名

榎本 光男 小関 常雄 関谷 昇 嶋貫 伸二  
倉阪 秀史 吉添 圭介 浦葉 晃平 赤佐 義之

※欠席 3名

江澤 武夫 大多和 一彦 横尾 隆義

事務局9名

統括参事 中村 文明

企画政策部 部長 津野 広昭

企画政策部 次長 栗坂 達也

企画調整課 課長 中村 峰之

企画調整課 副課長 地引 宏行

企画調整課 係長 木川 祐輔

企画調整課 副主査 能星 紀子

企画調整課 主任主事 佐々木 耕平

ボールパーク推進課 課長 入江 秀臣

7 傍聴人 0名

8 発言の内容

(栗坂次長)

ただいまから令和7年度第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を開催いたします。私、本会議の進行を務めます企画政策部次長の栗坂でございます。どうぞよろしくお願いたします。

はじめに、本日の会議につきましては、「君津市審議会等の会議の公開に関する規則」に

基づき、公開の会議としております。本日、傍聴者はおりませんので、その旨ご報告いたします。続きまして、会議の出席者報告でございますが、お手元の席次表をもってご紹介に代えさせていただきます。それでは、開会に当たりまして、中村統括参事からご挨拶を申し上げます。

(中村統括参事)

本日は年度末のご多用のところ、令和7年度第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃より本市の地方創生及びまちづくりの推進に当たり、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

本市では、令和9年度以降の4年間を計画期間とする総合計画後期基本計画の策定に向け、基礎調査、市民アンケート、団体ヒアリング、タウンミーティングなどを通じて、市の現状や課題の把握を進めてまいりました。本日の会議では、これまでの調査等の実施状況や、そこから見えてきた課題についてご報告申し上げ、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えております。

なお、本日は関連資料として、令和8年2月に実施したタウンミーティングで配布した「千葉ロッテマリーンズファーム本拠地移転プロジェクト」に関する資料もお配りしております。後期基本計画の検討に関連する事項として、併せてご参照いただければと思います。限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(栗坂次長)

ありがとうございました。

#### 【配布資料確認】

それでは議題に早速入らせていただきます。ここからは本会議の設置要綱第5条第2項の規定により、小関委員に座長をお願いいたします。進行をどうぞよろしくお願ひいたします。

(小関委員)

それではしばらくの間座長を務めさせていただきますので、御協力のほどよろしくお願ひいたします。

本日の会議録署名人につきましては、浦葉委員を指名させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは早速議題に入ります。議題1「君津市総合計画後期基本計画の策定状況について」、事務局からの説明を求めます。

(佐々木主任主事)

議題1「君津市総合計画後期基本計画の策定状況について」

## 【資料に基づき説明】

(小関委員)

ただいま事務局から説明がありましたが、その中で、まちづくりタウンミーティングの開催結果について触れられていたかと思います。ここで改めて、千葉ロッテマリーンズファーム本拠地移転プロジェクトの概要等について説明をいただきたいと思います。中村統括参事、よろしくお願ひします。

(中村統括参事)

## 【関連資料に基づき説明】

(小関委員)

ありがとうございました。それでは、まず事務局から最初に説明のあった「君津市総合計画後期基本計画の策定状況」について、委員の皆様からご質問やご意見等をいただければと思います。

(吉添委員)

今回作る計画は、総合計画のうち後期の分だということですがけれども、4番の「現行計画の指標達成状況を踏まえた評価」のところ、柱の中でCがどれぐらいを占めているかというのが出ていますけれども、これについて、具体的にどういったものが課題であったのかを教えていただくと、皆さんも意見が出しやすいのかなと思います。

それを残りの期間でどうやって達成させるのかというのが、今回の後期の課題だと思いますので、その辺りを教えていただければと思います。また、それをどういうふうに課題と捉えているのか、解決策まではまだ今の段階では出ていないのかもしれないけれども、少なくとも、どの課題と結びつけているのかということも併せて教えていただければと思います。

また、5番で課題の整理とありますけれども、その辺りも少し抽象的に見えるので、具体的な指標などが分かるといいのかなと思います。

(中村課長)

ご質問ありがとうございます。改めまして、企画調整課の中村です。どうぞよろしくお願ひいたします。

現行計画の評価について、もう少し詳細な部分という趣旨のご質問をいただいたものと受け止めておりますが、まず、こちらの施策評価の結果ですがけれども、令和6年度末時点における達成状況を整理したものでございます。前期基本計画は、令和4年度から令和8年度までの5か年の計画となっておりますので、現時点では途中段階の評価であるということをご承知おきいただければと思っております。

また、未測定の指標がいくつかございますが、国の統計データに基づくものですか、あるいは今回のアンケート調査の結果を踏まえて算出するものなど、現時点で数値が確定しない指標も含まれていることについても、ご承知おきいただければと思います。

全体を通じた評価の状況ですけれども、柱3の子育て分野につきましては、A評価が9ということで、比較的、他の柱と比べて一定の成果が見られているのではないかと認識しております。

ただ一方で、柱1の経済の部分ですとか、柱2の地域共生の部分につきましては、少し課題が残っているのではないかと考えておりました、評価につきましても、子育て分野に比べるとやや弱い状況であると受け止めております。

こうした課題分野を中心に、先ほど委員からもお話がありましたとおり、見直しが必要な部分もあると考えておりますので、今後、この調査結果なども踏まえながら、施策の検討に入っていければと考えております。

(吉添委員)

聞きたかったのは、例えば柱1でCとなったものが6件あるということですが、それが具体的にどういうものなのかということです。

つまり、どういう指標で、どの程度達成できていなかったのかといったことを、一つ一つ教えていただければという趣旨でした。

その上で、もしそれが5番の課題整理とつながるようであれば、その課題とリンクさせる形でご説明いただければと思います。

(中村企画調整課長)

失礼いたしました。

C評価の結果について、それぞれの指標ごとに申し上げますと、まず柱1の経済・環境の分野でございますが、商工業振興の部分では、新規企業立地件数を指標としております。こちらについては、直近の令和6年度の実績が1件で、目標値が2件ということで、60パーセント未満の達成となり、C評価となっております。

そのほか、事業者のデジタル化に向けた啓発セミナーの開催回数という指標を設定しておりますが、これについても、実績値が年1回で、目標値である年2回に対して約半分ということで、C評価となっております。

続いて、農林業振興でございますが、こちらは指標が3つございまして、1つ目が家族経営協定の締結数、2つ目が認定農業者数、3つ目が森林施業面積でございます。これらについて、家族経営協定の締結数は目標値30件に対して26件、認定農業者数は目標値110件に対して98件、森林施業面積は目標値105ヘクタールに対して74ヘクタールということで、それぞれC評価となっております。

その他、観光振興では、指標の1つとして、Facebook、Instagram等のSNSのフォロワー数を設定しておりますが、目標値7,000人に対して、実績値が4,483人ということで、こちらも達成区分がCとなっております。

このように、柱1の経済・環境においては、C評価が6件となっている状況でございます。

こうしたことも踏まえまして、経済の分野については、今回の課題整理でも挙げさせていただいているとおり、多様な働く場の確保ですとか、付加価値の向上、生産性の向上に向けた取組なども含め、後期基本計画の中で施策を練り直していく必要があるのではない

かと認識しております。

代表的な事項のみで恐縮ですが、以上となります。

(小関委員)

よろしいですか。

(吉添委員)

ちょっと時間がないかもしれないですけど、柱2から柱5についても、どのようなものが良くなかったのか、教えていただければと思います。

こういった点は、本来であれば資料としてお配りいただけると分かりやすいのかなと思ったのですが、少し分かりにくいと感じましたので、申し上げました。

(中村企画調整課長)

すいません。そうしましたら、指標の達成状況の一覧がございますので、ここで一つ一つ説明するよりも、そちらの資料を印刷したものを皆さんにこの後共有させていただければというふうに思います。

(吉添委員)

よろしくお願いします。

今、柱1の経済状況についてお話があったんですけども、総人口としては1万4千人減っている一方で、社会増減はどうだったのでしょうか。

(中村企画調整課長)

人口の社会増減につきましては、資料での具体的に提示はしておりませんが、令和5年の市の人口の社会増減がプラス30人、令和6年は一旦マイナスに振れたものの、令和7年直近ではプラス1人となっております。社会増減の状況としては、だいぶ和らいできているという認識しております。

(吉添委員)

昔は減っていたものが、最近は増え気味になっているということですね。私は地域活性化センターで日本全国の状況を見ているのですが、やはり地方部では社会減になっているところも多いので、そういう意味では、君津市は全国の市町村から見ると非常にうらやましい状況にあるのかなと思いました。

ただ、そうすると、やはり生まれる人が少ないということが問題なのかなとも思いました。もちろん、社会増の状況にあっても、今後は社会減となる可能性もあると思いますので、他と比べて良いから安心してくださいという意味ではありませんが、今後もしっかり取り組んでいただければと思います。

また、企業立地ですとか農業関係のお話もありましたけれども、社会増につなげていくためには、やはり働く場があるということが大前提として重要だと思います。

その一方で、自分の住んでいるところをどれだけ好きになるかということもさらに重要

なのではないかと思っています。昨年、私どもの地域活性化センターでも地方創生フォーラムを開催したのですが、その中でも、働く場の確保はもちろん重要である一方で、地元を好きであることが非常に大事だという話がありました。

アンケート調査など、学者の先生方の分析結果でも、特に子どもがそのまちを好きかどうかは、大人がそのまちを好きかどうかと大きく関わっているという話がありました。極端な例かもしれませんが、東京に出た子どもが帰りたと言ったときに、親が「こんなまちに帰ってきてても仕方がない」と言って止めてしまった、というような話もあるようです。そういうことを考えると、大人の地元愛が強いということは、かなり重要なのではないかと思います。

そして、大人が自分のまちを愛していれば、子どももそのまちを好きになる可能性が高いですし、一度外に出たとしても、大学卒業後、あるいはしばらくしてから戻ってくる可能性も高まるのではないかと思います。そういう意味で、経済状況と地元を好きになるという事の両方が非常に重要なのではないかという話がありました。

そうした中で、私自身、君津駅から歩いてこちらに来たのですが、歩いてきた中では、現時点では、すごくいろいろあって魅力的だなという印象までは正直受けませんでした。

ただ、今後ボールパークができるということは、非常に未来が明るい材料なのではないかと思っています。ぜひ、野球ファンだけでなく、大人も子どもも楽しめる、そして、君津に住んでいてよかった、また君津に戻ってきたい、そう思えるまちにしていく絶好のチャンスだと思いますので、ぜひ良い計画を立てていただきたいと思っています。

私からは以上でございます。

(中村企画調整課長)

貴重なご意見ありがとうございます。

働く場があるという点につきましては、君津市の場合、臨海部に製造業が立地している関係もございますので、そういった面では、一定程度、働く場の受け皿となっている状況にあるのかなと認識しております。

ただ、今回のアンケート調査などを踏まえると、さらなる雇用の多様性という部分について意見として挙がってきたところもございますので、その雇用の多様性の部分について、今後どういった取組ができるのかということは、この計画づくりを通じて、さらに深掘りしていければと考えております。

また、君津をさらに好きになってもらうという取組につきましては、先ほどお話がありましたとおり、今回、ロッテのファームを誘致し、プロ野球チームが君津に来るということで、市への愛着にもつながっていくのではないかと考えております。

あわせて、子どもがそのまちを好きになってもらうきっかけにもつながるのではないかと考えておりますので、このような課題も含めまして、せつかくの貴重な機会でございますので、今後の計画づくりの中にうまく落とし込んでいけたらと考えております。

【追加資料配布】

(小関委員)

今、事務局から指標の達成状況の一覧の配布がありましたが、C評価になっている項目を改善点として捉えて、今後の計画を練っていくということが重要かと思います。引き続きお気づきの点があればご発言いただければと思います。

(吉添委員)

この達成度の見方について確認したいのですが、例えば認定農業者数などは、110件の目標のうち98件の実績があれば、CじゃなくてBでいいんじゃないかと思うのですが。

(木川係長)

ご質問の認定農業者数で申しますと、計画策定時の現状値が102件、目標値を110件としております。令和6年度につきましては実績値が98件で、令和2年度の現状値に対して件数が減ってしまっていることから、進捗度が0%となり、C評価ということになっております。

(吉添委員)

分かりました。

8件増やさなければいけないというところで、実績が4.8件だったら、それが目標に対して60%の達成という見方になるということですね。

(小関委員)

先ほどのSNSのフォロワー数についても、素直に見ると、7,000人に対して4,483人で、ある程度達成していると思ったのですけれども、そういう評価の考え方になるということですね。

その他ございますか。

(倉阪委員)

まず、この分野別の現状分析のところ、人口1万人当たりの指標による比較分析を実施したということで整理されているのですけれども、こちらのシートにもいろいろ書いてありますが、1万人当たりということで類似団体との比較をしている一方で、人口ではなく、例えば年齢別の分析などもしていかないと、健康・医療の分野などは、高齢化が進んでいるところとそうでないところとでは状況が違ってくると思います。

その辺りについて、もう少し年齢構造、年齢構成に沿った形で比較をすることも必要なのではないかと思いました。

それから次に、市民等の意見把握のところ、「若年層を中心に転出意向が一定程度みられ、将来的な人口減少の進行が懸念されます」と書かれていますが、概要資料を見ると、10歳代から20歳代は転出意向が比較的高く、10歳代は30パーセントとあります。ただ、一回外に出るとするのは普通のことだと思うんですね。問題は、その後に戻ってくるかどうかだと思います。一回外に出て、いろいろな経験を得た上で戻ってきてくれるのであれば、市にとってもプラスになると思います。ですので、この転出意向というのが、そのまま行きっぱなしになる意向なのか、それとも将来的には戻ってくることを含んだものなのか、

そういったところの分析がかなり重要だと思います。そうした分析がされているのかどうか、お伺いしたいと思います。

また、若年層で転出意向が高いというのは、ある意味当然の面もあると思いますので、むしろ将来的に君津のために貢献するようなマインドを、小さい頃からきちんと育てていき、将来的に戻ってきてもらうということを考えていかなければいけないのではないかと思います。この数字だけでは、そこまでは分からないのかなというふうに感じました。

それから、前はきみつ未来ワークショップというものを実施して、私どもの方でも協力させていただいたのですが、今回はやらないのかなというのは、単純に少し気が変わったところだと思います。

また、指標の達成状況は、目標値との比較で達成度を見ていると思うのですが、目標値に近づいている傾向にあるものと、そうでないものを、少し区別しないと分かりにくいのではないかと思います。たとえば、認定農業者数のように、減少傾向が見られるようなものもありますし、目標は達成できていないけれども、そこに近づいていて惜しいというものもあると思います。

そういった違いがある中で、単純にC評価が多いからというだけでは議論できないのではないかと思います。

以上です。

(能星副主査)

ご指摘ありがとうございます。

まず1点目の分野別の現状分析のところですが、おっしゃるとおり、人口1万人当たりで全てを見てしまいますと、高齢化率などの違いがありますので、それだけで十分に見られるものではないと考えております。また、福祉・社会保障の関係につきましては、一部、65歳以上人口1万人当たり、また、児童福祉施設等数については15歳未満人口1万人当たりで見ているところではございますが、やはりこの点につきましては、今後、さらに詳細な分析が必要になってくるのではないかと考えております。

もう1点、アンケートに関する転出意向についてですが、こちらも今回のアンケート調査では、単純に転出意向があるかないかという点を聞いておりますので、将来的に戻ってくるかどうかという分析までは至っていないところでございます。

今後、そのような分析についても検討していければと考えております。

(中村企画調整課長)

補足で、前回、総合計画を策定する際に実施したきみつ未来ワークショップの件でございますが、今回は総合計画のうち基本計画、すなわち施策を中心に、今後こういったものを位置付けていくかという検討になりますので、基本的には、この基礎調査を踏まえながら、今後の計画づくりに取り組んでいければと考えております。

また、計画の策定に当たりましては、前回、倉阪委員にもご協力いただいた、きみつ未来ワークショップや、首長への提言なども参考にさせていただきながら、取組を進めていければと考えております。

(小関委員)

倉阪委員よろしいですか。  
次に、嶋貫委員お願いします。

(嶋貫委員)

嶋貫でございます。

先ほど、若年層の転出意向についてお話があり、私も、それがIターンなのかUターンなのかという点は非常に気になっております。社会増減が一応止まっているということであれば、その状況について事例を集めて、まちづくりに活かしていただければと思います。

それと、今回、千葉ロッテマリーンズのファームの誘致に成功したという点は、君津というまちのブランドを高める意味でも、非常に良い結果だったのではないかと考えております。

あと、先ほど指標の見方というところで、例えば農林業振興のところで、認定農業者が現状値102件に対して目標110件という中で、実績が98件だからC評価になるというお話がありましたけれども、これは機械的に達成度を把握するとCということになるのだと思います。むしろ大事なのは、この98件の中身なのではないかと考えております。農林業というのは、数が減ったから直ちに駄目ということではなくて、例えば、離農された方の農地を吸収することで大規模化が進み、その大規模化によって利益も上がるような経営が増えてくれば、その中で就業者も増えてくるでしょうし、そういった中身の部分がこれから重要なのではないかと考えています。

おそらく、ここに示されている数字だけではなかなか見えにくいと思うのですが、そういった個々の経営が維持できるような仕組みづくり、これは商工業についても同じだと思いますが、事業者数の増減だけではなく、いかに生産性を高めて、そこに定着していける働く場をつくっていくかが重要なのではないかと考えております。

また、各地で人手不足が課題になっていて、就業者数の減少を外国人就業者が補っているという構造も出てきているのではないかと考えていますが、その現状についても教えていただければと思います。

(中村企画調整課長)

ご質問、ご意見等ありがとうございます。

まず、今回、団体ヒアリングや様々な指標の確認などを進めているところではございますが、皆様からご意見を頂戴し、さらにもう少し深掘りした調査等が必要なのではないかと感じた次第でございます。

団体ヒアリングにつきましても、様々な団体からご意見をいただいているところではございますが、もう少し中身の部分を確認しながら、対応していければと考えております。

また、若者の転出意向につきましても、もう少し細かい分析が必要ではないかと思われましたので、まずはそのように受け止めているということをご報告させていただければと思います。

それから、外国人のところではございますが、詳細な調査結果概要のほうで、外国人人口について少し触れており、昭和55年から令和7年にかけて一貫して増加傾向にあること、

特に令和2年から令和7年までのこの5年間で大きく増加している状況をお示ししております。これは、全国的な人手不足の状況などから捉えられる内容でもあるかと思いますが、一方で、技能実習ですとか特定技能などの在留資格による受入れの拡大ですとか、農業分野も含め、いわゆるエッセンシャルワークと言われる分野における人材確保の動きなどが影響しているのではないかと考えております。

また、事実関係に誤りがあれば補足いただければと思いますが、本市においては製造業が強みである一方で、そうした産業構造上の特徴などから、このような増加傾向にも一定程度影響している可能性があるのではないかと考えております。

さらに、本市においては、商工会議所において外国人材の受入れ等を仲介している状況もあると伺っておりますので、そうした取組も、こうした数字に表れているのではないかと推測しております。

(小関委員)

よろしいですか。

その他ございますか。

(関谷委員)

私の方からは、特にこの計画を進めていく上での考え方について伺いたいと思います。

地域経済、観光、若者の問題、コミュニティと、それぞれ重要な論点が示されているわけですが、全体として、ある種の戦略性がまだ見えてこないという印象を強く受けています。

例えば観光について考えると、計画にはその方向性が書かれてはいるのですが、観光をどういうふうに戦略的に進めていくのか、という点がもう少し見えてくるとよいのではないかと思います。少なくとも、千葉県全体を見ても、今は県内の限られた特徴ある地域を重点的に支援していく方向に変わってきていると思いますし、君津市についても、市単独で観光を進めていくことには限界があるのではないかと思います。

そういう中で、もう少し広域的にどういう人の流れをつくっていくのか、その中で君津市としてどういう観光戦略をとっていくのか、といった点が見えてこない、人の交流を生み出すとか、入込客数を増やしていくという話もなかなか具体性を持ちにくいのではないかと思います。もっと言えば、どういう戦略のもとに、どういうターゲットを想定して、何を行うことで、どのように人を増やしていくのか、というところが少し見えにくいので、その辺りをまずお聞きしたいというのが一つです。

それから、特に観光の部分で言うと、地域経済の問題も非常に問われてくると思います。先ほどボールパークの話もありましたけれども、そうした取組も含めて、地域の人やお金を含めた様々な資源の循環性をどう考えているのかという点です。例えば観光一つをとっても、お土産物をつくるにしても、市内の人材や市内の資源を使って、市内で消費されるような、そういう循環性を戦略的に組み立てた上で進めているのかどうかということが問われてくると思います。

また、ボールパークのような大きなプロジェクトを進めていくのであれば、その中での雇用の問題も含めて、この地域の方々がどう関わっていくのかという点も併せて捉えてい

かないと、ボールパークの戦略性というものも見えにくくなってしまっているのではないかと思います。その辺りも、観光や地域経済と絡めて、人や資源の循環性をどう考えているのか、お尋ねしたいと思います。

それから、先ほどから若者の流出ということで、出ていくこと自体はある程度仕方がない面もあると思います。問題は、その後どう戻ってくるのか、あるいは君津との関わりの中で、いろいろなことにチャレンジできるのかということだと思います。特に若い世代は、一つの会社にずっと勤め続けるという傾向がだいぶ薄れてきていますから、逆に言うと、いろいろなところでチャレンジできる場や機会、支援をかなり求めているところがあると思います。そういう中で、出ていくのは仕方がないとしても、違う形で若い人たちにもっとチャレンジしてもらいたいということを考えたときに、そういう若い人たちがどう関われるのか、その入り口や支援があるのかどうか。しかも、これも単発ではなかなか難しく、面的にそういう動きを蓄積していけるかが問われるところだと思います。

総合戦略の中では、多様な人材の活躍支援ということがうたわれていますけれども、その辺りをどのような戦略性を持って進めていこうとしているのかということもお聞きしたいと思います。

最後に、地域コミュニティの話を伺いたいと思います。自治会については、相当限界に来ているところもあるのではないかと思いますし、地域コミュニティの部分でどれくらいテコ入れがされているのかは分かりませんが、このままいけば、区や自治会という仕組み自体が、10年持つかどうかという状況ではないかと思います。そういう中で、今、全国的に広がっているのは、横のつながりをどうつくっていくかということだと思います。近年は、小学校区単位で横のつながりをつくるとか、あるいは自治体の中で一定の地区単位ごとに連携を図っていくといったことがかなり問われています。ただ一方で、既存の考え方や蓄積もありますので、その辺りをどう時間をかけながら移行していくかということも問われてくると思います。この点は全国の自治体の中でも、うまく進められているところとそうでないところとの差がかなり出てきているところだと思いますので、この地域コミュニティをどういうふうに君津市として考えていこうとしているのか、その方向性を伺えればと思います。

(中村企画調整課長)

ご意見ありがとうございます。

戦略性ということでご意見をいただきましたが、その点は、まさに課題であると認識しております。

前期基本計画の策定に当たりましては、本市の状況を踏まえ、戦略的プロジェクトとして具体的には、「安心して働ける環境をつくる」、「子育て世代が住みやすいまちをつくる」、「環境グリーン都市をつくる」、「デジタル技術を活用して新たな価値をつくる」ということで雇用、子育て、グリーン、デジタルという4つのテーマを持って進めてきたところがございます。

ただ、関谷委員がお考えのようなどころまで十分にターゲットングができているかという点につきましては、若者や女性といった層をある程度ターゲットにしながら、そうした方々にリーチできる取組ということで施策をまとめてきたところではありますが、今回、

アンケート調査や様々な調査を行う中で、いくつか課題も浮き彫りになってきております。

そうしたことから、後期に向けては、例えば施策分野ごとにどういう戦略性を持って取り組んでいくのか、あるいは、先ほどもボールパークの話させていただきましたが、関係人口や交流人口、さらにはその先にある定住人口にどうつなげていくかが、まさに今後の取組における課題であると認識しております。

また、若者の流出に関する点でございますが、今年度からこども計画がスタートした中で、できるだけ子どもの意見を聞く機会を設けるということで、担当部においては「こども若者会議」を行い、そこで出てきた意見を施策に反映しようという努力も重ねていると承知しております。

委員おっしゃるとおり、それを実現のところまで昇華できるかどうかのも一つの課題だと思っておりますので、今後、計画策定に当たりまして、もう少し若い人たちの意見を聞きたいという思いもございますので、そういった機会をつくっていただければと考えております。

最後に、コミュニティの件でございますが、今回、まちづくりタウンミーティングを各地区で行う中で、参加された方々から様々なご意見をいただいております。自治会の活動をもう少し減らせないかですとか、同じ役員が何度も繰り返し担っていて、なかなか後継者がいないといった状況なども伺っております。コミュニティや自治会の会員数も低下している中で、従来の延長線上のやり方ではなく、新しいやり方が、今後コミュニティを維持していく上で必要になってくるのではないかと考えておりますので、自治会活動の負担をどう軽減していくか、もう少し効率的に進められる方法がないかといったことも含め、今後の計画づくりの中で、担当部や自治会の皆様とコミュニケーションを取りながら進めていただければと考えております。

少し抽象的な回答になってしまい申し訳ありませんが、以上でございます。

(関谷委員)

少しだけ補足すると、今、コミュニティということで、自治会のような取組について、いろいろ意見を聞かれているところかと思えますけれども、私も県内のいろいろな地域を見ている中で感じるのは、やはり団体組織そのものを守ろうという発想が非常に強いということです。ただ、これはどう考えても、もう限界が来ていると思えます。とはいえ、別に団体をなくせと言いたいわけではなくて、どういう取組をどういう単位でやっていくべきなのかということをもっと柔軟に話し合っていた方がよいのではないかと思います。そうでないと、既存の団体をそのまま前提にして、役員をどうするかといった話になりがちです。けれども、役員のために地域活動をやっているわけではないので、そういう意味では、この地域でどういうことが必要とされているのかということ、地域住民の方々がしっかり考えていく場や機会をつくっていかないと、本当に人もいない、高齢化も進んでいるが、団体組織だけはそのまま維持しようとしている、という状況になってしまうのではないかと思いますので、その辺りは、もう少しいろいろな角度から考えていく必要があるのではないかと思います。行政の立場からは言いづらいところもあるのかもしれませんが、その辺りを本気で考えていかないと、なかなか難しいのではないかと思います。

同じようなことは、例えば公共交通のあり方一つをとっても言えるのではないかと思います。公共交通もいろいろ難しいところはあると思えますけれども、見方を変えれば、例

えば地域住民の方々がどういう移動手段を考えているのかということは、ある意味では生活スタイルの見直しにも関わってくる話だと思います。病院や買物、遊びのことなど、いろいろなことが移動に関わってくるわけですが、そのあり方を考えないと、公共交通はあって当たり前だという時代ではもうなくなっていると思います。

ですので、そういうことを地域住民と一緒に考えていかないと、なかなかアイデアも出てこないと思います。そういう意味では、公共交通事業者、地域住民、行政が同じテーブルに乗りながら、考えていくことが必要なのではないかと思います。県内でも、そういったことを戦略的に進めている自治体はいくつもありますけれども、そういうこともそろそろ本格的に問われてくるのではないかと思います。

もう一つ、子育て支援についてですが、いろいろな取組をされているということは分かるのですが、子育て環境を良くするだけでは、多分若い人たちは残らないし、移り住んでもこないのではないかと思います。

やはり若い人たちの目線で考えたときに、子育て環境だけでなく、住環境とか就労環境、それから福祉関係のことなどが、ある程度つながりを持ってイメージできないと、君津市に移り住もうかなとか、住み続けようかなというイメージが膨らまないのではないかと思います。そういう意味では、そうしたイメージが膨らむような情報発信も必要になってくるのではないかと思います。以上です。

(中村企画調整課長)

貴重なご意見ありがとうございます。

委員おっしゃるとおりで、団体の存続ありきで物事を進めていけるような、そういうリソースの状況では、もはやないということは十分認識しております。その地域ごとに、それぞれ課題がありますので、その課題を起点として、人材や財源も含めて、何ができるのか考えていくことが必要になってくるのかなと思っております。

それは公共交通や若者支援についても同じかなというところがございますので、そういった視点で、今後の対応につなげていければと思います。

(小関委員)

それでは、1つ目の議題につきましては、質疑をここで打ち切らせていただきたいと思います。

続きまして、千葉ロッテマリーンズファーム本拠地移転プロジェクトに関して、今後のまちづくりにどのようにつなげていくか、また、交流人口の創出や地域のにぎわい、魅力向上などにどう生かしていけるかといった観点から、ご意見をいただければと考えております。

(倉阪委員)

もともとは田んぼだったのですね。そこに、駅から1キロちょっとで歩いて行けるということで、土地の活用という点でも、資源がたくさんある場所だと思いますし、大変良いことかなと思います。

また、防災公園としての機能ということも資料に書かれておりますけれども、今後、そうした防災公園としての機能を備えるためには、やはり再生可能エネルギーを導入し、蓄電池も入れるなど、本格的に取り組んでいく必要があるのではないかと思います。平時からゼロカーボンのパークにするという設計を、初めから考えていかないといけないのではないかというふうに感じました。阪神の事例でも「ゼロカーボン」と書かれておりますけれども、非常時だけではなく、平時から再エネで賄えるようなことを目指していかないのではないかと思いますので、その辺り、エネルギーをどのように考えているのかを伺いたいというのが1点です。

もう1点ですが、せっかくこのような施設ができるのであれば、野球をしない季節でも使えるようにすることが大事ではないかと思います。例えば、ランニングなどは非常に活用しやすいのではないかと思います。最近ハリラーマラソンや24時間マラソンなど、走ることを目的としたイベントもいろいろありますので、そういったものを外周などを活用して実施できれば、かなり有効活用できるのではないかと思います。また、運動して汗を流せるような機能もあつたらよいのではないかと思います。資料の中に「付加価値ゾーン」という表現があり、今後検討と書かれておりますけれども、例えばそこで汗を流して帰れるような仕組み、プールまで必要かどうかは分かりませんが、何かそういった機能があるとよいのではないかと思います。

(入江課長)

ボールパーク推進課の入江です。ご意見ありがとうございます。

1点目の再生可能エネルギー関係についてです。現在、整備計画、基本計画を策定しているところでございます。その中では、まだ表立って再エネというところまでの取組は含まれていないのが現状でございますが、今後の課題の一つとして認識させていただきます。

2点目の、ランニングという使い方につきましても、アイデアをありがとうございます。今回のボールパークにつきましては、都市公園という位置付けでございます。その中では、当然、野球というのが一つの大きな要素ではありますが、私たちとしては、都市公園である以上、市民の健康ということはこのボールパークで実現していきたいという思いがございます。その中で、ランニングコース等につきましても設置する方向で現在設計を進めております。冒頭でもご説明させていただいたように、野球につきましては、年間を通じた公式戦の数はそれほど多くございません。それ以外の日に、いかに市民の皆様に来ていただくかが重要だと考えております。野球がある日だけの公園ではいけませんので、365日賑わいのある場を目指して、様々な施策を打っていきたくと考えております。そのためには、やはり地域の方々や市民の皆様が主体的に関わっていただくことが重要であると考えております。先ほど関谷委員からコミュニティのお話もありましたけれども、このボールパークが、そういった面でも何らかの役割を果たせるのではないかと考えております。様々なイベントを実施し、市民の皆様に来ていただける場、そして健康につながる場を目指していきたいと考えております。

最後に、付加価値ゾーンにつきましては、現段階ではまだ具体的な内容は定まっておりますけれども、ボールパークができることによって、多くの人流が生まれることを期待しております。その人流をさらに高めるために、こういったものがこの付加価値ゾーンに

ふさわしいのかということ、今後考えていきたいと思っております。

(小関委員)

その他ございますか。

(吉添委員)

市民がここに集まるときには、基本的には車で集まると考えてよろしいのでしょうか。君津駅との距離感なども示されていますけれども、君津駅とこの間をどうするのか、あるいは交通機関との連携をどうするのかといった点について、何か考えておられることがあるのでしょうか。

他の事例では、駅と新しくできたアリーナの間をどうつなぐか、非常によく考えているところがあります。そこでは、ハード整備だけではなく、その間をどう歩いて楽しく通ってもらうか、あるいはその途中でイベントのようなことを行ったり、スタンプラリーのような仕掛けをしたり、食べ歩きのようなことを取り入れたりしながら、その導線自体をどう活性化するかということを中心に工夫していました。

もちろん、君津市でそれをそのままやるべきかどうかは分かりませんが、今の段階で、そこまでのにぎわいのある店舗が並んでいるわけでもないでしょうし、ゴミの問題などもあると思いますので、それがそのまま適しているかどうかは別だと思います。ただ、他の地域ではそういった工夫をしている事例もありましたので、参考までにご紹介させていただきます。

そういう意味で、君津駅とこの場所との間、あるいは交通全体との関係をどう考えておられるのか、現時点で何かお考えがあれば教えていただければと思います。

(入江課長)

基本は、今回かなり広い駐車場を整備する予定ですので、車で来られる方は多いと考えております。ただ一方で、実際にZOZOマリンスタジアムなどへ行きますと、野球観戦の楽しみの一つとして、お酒を飲めるということもありますので、私たちとしては、公共交通を使って来られる方も多くいらっしゃるのではないかと期待しております。

その中で、君津駅からボールパークまでが1キロ圏内であるということで、非常にポテンシャルは高いと考えております。ただ、やはり本日ご覧いただいたとおり、現状としては少し寂しい印象があるのも事実でございます。

そこで今回、君津市では建設部と市内の金融機関のご協力も得ながら、まだ仮称ではありますが、「ボールパークストリート」という、活性化に向けたプロジェクトを立ち上げたところでございます。やはり、最初から大きくやるのは非常に大変ですので、まずは小さくても何かを始めていこうという趣旨で考えております。例えば来年度中であれば、キッチンカーを出すような形で、まずは賑わいをつくっていく、小さな取組からスタートしていこうと考えております。それが少しでも形になってくれば、参加する事業者も増えていくだろうということで、まずは活性化の第一歩を踏み出したところでございます。

その一方で、駅前にはトイレの問題ですとか、駐輪場の問題などもございます。先ほど

申し上げたように、1キロ圏内ということですので、サイクリングであったり、あるいは電動キックボードなど、様々な活用の仕方があるのではないかとということも含めて、先ほど申し上げた新たに立ち上がったボールパークストリートの協議会の中で、現在検討しているところであります。

また、他にも様々な事業者の方々から参考になるご意見をいただいております。例えば、今回二軍とはいえ、今はナイターが多くなっていく流れにございますので、試合に勝った日には、帰り道の街灯の色を変えるなど、来ていただいた方が楽しめるような仕掛けを考えていけないかという話も出ております。そうした楽しみを通じて、二度三度と来ていただき、リピーターになっていただけるような仕組みを考えていきたいと思っております。

最後に、公共交通という点では、やはりJRが大きいと考えております。以前は車両数も多かったと思いますが、最近では昼間の内房線は2両で走っている状況でございます。試合のある日などには、臨時便なども出していただけるとよいなという思いもございまして、今後、JRとも協議を進めていきたいと考えております。

(吉添委員)

ありがとうございます。

飲まれる方にとっては、やはり公共交通機関があると良いと思いますし、観戦の後に少し楽しみながら帰りたいというニーズもあると思います。おっしゃるとおり、一気に飲み屋街のようなものをつくるというのは現実的には難しいのかもしれませんが、キッチンカーや屋台のような形で、柔軟に賑わいをつくっていくというのは、とても良いアイデアだと思います。ぜひ、この14.8ヘクタールの整備予定地だけではなく、駅からその間のエリアも含めて活性化していけると良いのではないかと思いますので、頑張ってくださいと思います。

私からは以上です。

(小関委員)

その他ございますか。

(赤佐委員)

赤佐と申します。ハロワークから参りました。

我々の仕事にも関わるところですので、雇用の点でお伺いしたいのですが、今回、このボールパークの誘致に当たって、直接的な新たな雇用について、人数的なものをある程度把握されているのかどうか、お伺いできればと思います。

(入江課長)

雇用の直接的な人数につきましては、現時点では、まだ把握していないところでございます。ただ、雇用という点では、どのような方に働いていただくかということについて、一つのアイデアとして、市長との話の中でもよく出るのは、高齢者の方であったり、障害のある方であったり、そうした方々にも、今回のボールパークを通じていろいろな形で働いていただけると良いのではないかと、ということです。

昨年の夏、アメリカに視察に行った際に、障害のある方が楽しく仕事をしている様子が非常に印象に残っております。車椅子の高さが、お客さんと目線が合うような高さになるよう工夫されていて、そうした中で仕事をされている姿を見て、非常に参考になると感じたところでございます。

そうしたことから、一般の方の雇用はもちろんですが、福祉の面での雇用についても、ボールパークを通じて進めていければという思いはございます。

以上です。

(小関委員)

皆さん、どうもありがとうございました。事務局におかれましては、各委員からの貴重な意見等も参考にしながら、今後の取組を進めていただければと思います。

以上で本日全ての議題を終了としました。皆さんのご協力どうもありがとうございました。進行を事務局に返したいと思います。

(栗坂次長)

本日は、皆様から様々な貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

委員の皆様には、今期の任期におきまして、本市の地方創生及び総合計画の推進にご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

なお、委員の皆様は、3月31日までとなっております。次期につきましては、一部、人事異動等により委員の交代もあろうかと思いますが、多くの委員の皆様には、引き続きお願いをさせていただきたいと考えております。

今後とも、本市の地方創生及びまちづくりの推進にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

午後3時20分閉会